

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	事業終了時点で、ハード面では2地区で給水所が改設や建設され、ハイチ西県のパルム地域周辺住民の安全な水へのアクセスや衛生環境が改善された。 また、2地区の水管理委員会では、給水施設管理の規約を作成するために、メンバーの再結成と育成を通して、給水施設の持続可能な維持管理が適切に行われるようになった。 先行事業で形成したその他の4つの水管理委員会の内、3つの水管理委員会は、管理能力の強化を行った事で、給水施設の持続可能な維持管理が可能になった。
(2) 事業内容	(ア) 安全な水へのアクセス (計 310 世帯) ● レオガン地区 Haut Gerard: 既存蛇口式給水施設 6 棟からキオスク型給水施設 6 棟へ改設、パイプ保護のための柱の建設を行った (計 150 世帯) ● グランゴアープ地区 Bas Gerard: 既存蛇口式給水施設 3 棟からキオスク型給水施設 4 棟へ改設、既存貯水槽 1 棟の修復が完了した。また、追加事業として、水源 Nanso の修復と、200 メートルの水道管の延長とキオスク型給水施設の建設した (160 世帯)。 (イ) 水管理委員会の再結成・育成・強化 (1) 新事業地での水管理委員会の再結成・育成 過去、上記 (ア) の 2 地区 (計 310 世帯) には水管理委員会が存在していたが機能していなかったため、本事業ではメンバーの再結成・育成と給水施設維持のための研修を行った。 (2) 前事業で結成された水管理委員会の強化 (計 2,005 世帯) 先行事業で弊団体が結成した 4 つの水管理委員会の能力強化を目的に、料金徴収などのフォローアップを行った。また、当団体のコミュニティー・モビライザーが 2 週間に 1 回、4 つのコミュニティー¹を訪れ、給水施設の維持管理をするように働きかけた。また、DINEPA (ハイチ水衛生局) との協力関係も強化するように徹した。 (ウ) 衛生促進 (1) 本事業地における衛生促進活動 本事業で新しく始めた 2 地区では、19 名の衛生促進プロモーターの選定し、衛生促進に必要なトピックの研修を行い、衛生知識向上をサポートした。各コミュニティーで衛生プロモーター主体の衛生促進セッションや戸別訪問を行い、事前 KAP 調査と事後 KAP 調査にてその成果を測った。 (2) 前事業地における衛生促進活動の実施

¹ レオガン地区 Mathieu (1,738 世帯)・グレシエ地区 Santo (61 世帯)・グランゴアープ地区 Jeanty (154 世帯)・レオガン地区 Duplessis (52 世帯)

	前述した 4 つのコミュニティでは、過去の事業でトレーニングを受けた衛生プロモーターによる衛生促進活動が行われた。 また、衛生環境が及ぼす影響が大きい子ども（1326 名）を対象に全 6 つの地域の学校（14 校）で、衛生プロモーター（58 名）が衛生促進活動を実施した。なお、全事業地で、1,326 人の生徒が手洗い、トイレの使用、水の入手、運搬、保管、水の浄化の仕方について研修を受けた。 特に、世帯数の多いレオガン区 Mathieu にある保健所では、3,264 名の患者が水因性感染症の予防啓発を受けた。 また、全 6 地区（2,315 世帯：11,575 人）における、衛生プロモーターによる戸別訪問では、毎回同じ啓発をするのではなく、同じ家に訪問する際は、異なるトピックについて啓発を行った²。
(3) 達成された成果	(ア) 給水施設（塩素による水の浄化処理設備含む）の建設<水へのアクセスと給水量について> ● 調査によると、1 人あたり 1 日最低 15 リットルの水を使用している割合は 97%に上った。（別添 1 参照） ● 事業終盤での調査によると、給水所での水汲みを待つ時間については、100%の住民が 30 分以内に水汲みを行えると答えた（別添 1 参照）。 <水質について> ● DINEPA 指定機関の水質検査では、Haut Gerard と Bar Gerard の給水施設から提供される水は汚染されていることが分かった。今後、水管理委員会による、定期的な塩素などの浄化処理が想定される。 ● KAP 調査によると、住民の 38%が基準外である塩素残存量 0.2g/L に収まらなかったが、残りは基準内に収まることができた。（別添 1 参照） (イ) 水管理委員会の再結成・育成・強化 6 つの地区のうち、5 つの水管理委員会は継続的な活動を行っている。唯一活動が行われていない Duplessis は、現在他団体が給水施設の改設を行っているため、水管理委員会に対する強化は活動していない。 ● Haut Gerard と Bas Gerard では、正式に DINEPA の監督下に入り、地域住民により選ばれた委員会リーダーにより委員会の規約も策定され、銀行口座開設され、給水施設の維持管理がされている。一方で、DINEPA が水管理委員会の規約を定めた後、水の料金徴収が開始され、最初の 2 ヶ月は目標である 50%前後の料金が徴収されたものの、その後は下降気味である。料金徴収が減った理由として、水管理委員会自身によって会の規約が正式に決められていないこと、また住民の一部は支払いに前向きではなく、支払はなくても水が得られる事があげられる。

² 一方、本事業での全ての地区で、水因性感染症に焦点を当てた衛生促進も行っている。

- レオガン地区 Mathieu では、水管理委員会が数ヶ月機能しなかったことを受けて、DINEPA は同地域で水管理委員会を再結成するため、新しいメンバーがアクションプランを立てた。新しいメンバーのモチベーションが高く、最初の 2 ヶ月で 50% 前後の料金徴収が記録され水管理委員会は機能している。一方で、DINEPA から協力がなかったことが主な原因で彼らのモチベーションが下がりつつあり、料金を徴収することが少し難航している。
- また、グレシエ地区 Santo は一番安定して料金徴収が行われた地域である。月毎利用料の徴収率が安定的に 50% 以上を達成した (52%: 別添 2: 参照) 水管理委員会のメンバー内の同意がとれなかったため、水量測定器を設置することはできなかったが、委員会は機能しており、現地での水の供給は問題なく行っている。また、水管理委員会では、1 人しか活動していないが、事業の最初から最後まで、50% 以上の徴収率を記録している。
- さらに、グランゴアール地区 Jeanty は、水管理委員会と水道利用者が資金を出し合い、水量測定器を各世帯全ての私用水道に設置し、水管理ができるようになった。また、63% 以上の料金徴収を記録している。また、Jeanty は本事業地で唯一キオスクでの料金徴収が安定してできている地区で、西県で一番素晴らしい活動を行っている水管理委員会として DINEPA により表彰された。キオスクでの料金徴収は総計で 11,210 グルド (現地通貨) を記録している。今後はキオスク管理を主な生計手段として管理者が安定した生活がとれるようになる事を想定している (別添 2 参照)。
- レオガン地区 Duplessis では、水管理委員会が機能していなかったため、DINEPA はメンバーを再結成しようと試みたが、事業期間中に適任者を見つけることができなかった。

(ウ) 衛生促進

- 今事業では、合計で 58 名の衛生プロモーターを採用し、トレーニングを行った。衛生プロモーターは事業地において、合計 10,192 回の戸別訪問を行い、衛生知識の普及活動を行った。(別添 4 参照)
- 水を汲む際に使用する容器について、事前の KAP 調査では、9% が汚れている容器を使用すると答えた。繰り返し衛生啓発をした結果、事後の KAP 調査では、全員が清潔な容器を利用すると答えた。また、水を保管する容器に関しても、事前調査では、99% の住民が清潔な容器を使っており、事後調査でも 100% が清潔な容器を使っていることが確認され、住民の間で良い習慣が行われていることが確認された。(別添 3 参照)
- 水の浄化方法では、事前 KAP 調査では、7 通りの方法があることが分かった。そこで、水の浄化方法に効果があり、使いやすい塩素 (液体) とアクアタブを推奨し、啓発を行った結果、事後 KAP 調査では、塩素 (液体) が 57% で、アクアタブが 43% にな

	り、住民全員がこれらを使うことが確認された。 ● 手洗いについて衛生啓発した結果、事業前後の KAP 調査で、トイレの後に手洗いをすると答えた住民は 72%から 84%に増え、食事の準備をする前と答えた住民は 27%から 41%に増えた。コレラを予防するには、トイレの後の手洗いは重要であり、住民の間で広まっていることが確認された。
(4) 持続発展性	数年間のハイチでのフィールド経験を通し、DINEPA と協力して活動することは困難であったため、DINEPA のサポートを得ずに水管理委員会が機能するように努めた。 6 つの水管理委員会の内、5 つの水管理員会（特に内 Santo と Jeanty）は、比較的安定的に活動しており、今後も住民自身の手で給水施設の持続的な維持管理体制が運営されることが期待できる。